“語る”と“聴く”を繋げる初年次セミナー
ー九州大学基幹教育カリキュラムを事例にー

田中 岳（九州大）

九州大学基幹教育カリキュラム

授業実践事例
（基幹教育セミナー）

アクティブ・ラーニング：
どんな方法・方略を駆使するのか

九州大学基幹教育カリキュラム

基幹教育の目的と目標（履修要項）

- 目的

  専攻教育と協働して，生涯にわたって学び続けることを幹に持つ，行動力を備えた人材であるアクティブ・ラーナーへ求められる能力を培う

- 目標
  - ✓ 進展するグローバル社会で求められる，深い専門性や豊かな教養へとつながる知識，技能を身につけよう
  - ✓ 新たな知や技能を創出し未知な問題を解決する力である「ものの見方・考え方・学び方」を身につけよう
  - ✓ 既存の知識から解答を探すのではなく，自発的に問題を提起し，創造的・批判的に吟味検討することができる主体的な学び方を身につけよう
  - ✓ ものの見方・考え方・価値観の異なる人と多様な知を交流し活動する能力，差異を認め合う共感性，そして問題解決へと導くコミュニケーション能力を磨こう
  - ✓ 他者との対話，共に学ぶ協働，そして自らを振り返る内省のサイクルを通じての力を高めよう
  - ✓ 生涯にわたって学び続ける強靭な幹を育もう

KYUSHU UNIVERSITY

基幹教育科目の構成（履修要項）

- 基幹教育セミナー
  - ✓ 1単位
- 課題協学科目
  - ✓ 2.5単位×2
- 言語文化科目
  - ✓ 12単位（英語7~10/初修5~2）
- 文系ディシプリン科目
  - ✓ すべての学生に専門基礎
- 理系ディシプリン科目
  - ✓ 教養/リメディアル/専門基礎
- 健康・スポーツ科目
- 総合科目
- 高年次基幹教育科目
  - ✓ 専攻教育を背景に知の連携・深化

◆1年次
- ✓ 36単位

◆要卒
- ✓ 48単位

KYUSHU UNIVERSITY

基幹教育セミナー（授業デザイン）

- 活動

  一人ひとりが自らの大学における学びについて深く問い，またそれを他者に伝える（仲間との対話や自己省察により新たな気づきや疑問を発見する過程）

- 目標

  - ✓大学における学びへの意欲を高める
  - ✓自らの学びが持つ可能性や意義について自分なりの理解に基づく説明ができるようになる
  - ✓創造的，批判的に問題に取り組み学んでいく態度を培う
  - ✓仲間（他者）と学ぶ意義について自分の言葉で説明ができるようになる

KYUSHU UNIVERSITY

基幹教育セミナー（授業デザイン）

➢サイズ

✓文理混成で約20名/クラス

✓（月・火・木・金）5限に開講、およそ30クラス/日

➢ツール

✓リフレクト・シート

✓フィードバック・シート

➢コース

1. オリエンテーション▽対話と学び

2~3. プレ発表▽大学で学ぶ意義

4~6. 教員による「私にとっての学び」

7. 口頭発表・文章による表現

8. 大学で学ぶ意義

9~14. 本番発表　4名/日

テーマ：自分が大学で学ぼう（取り組もう）と考えていること

15. まとめ

KYUSHU UNIVERSITY

課題協学科目（授業デザイン）

- 活動
  - ✓ 専門分野の異なる3名の教員によって検討された『教室テーマ（クラス）』を選択する
  - ✓ 『教室テーマ』のもとで各3名の教員が異なった視点から提供する『協学課題（小クラス）』について，グループ作業や個人演習，小講義等を通じて学ぶ
  - ✓ 協学課題を考えるために必要となる小講義に加え，個人演習による自らの学び，グループ作業等による学生同士の学びが重視される
  - ✓ 1クラス（文理混成の約150名）は、小クラス3つ（約50名）に分けられ，授業は2コマ連続/週で行われる
- 目標
  - ✓ 幅広い視野をもって問題を発見する姿勢，問題の解決を目指して学び続ける態度と技能，専門を異にする他者と協働できる能力を養う

KYUSHU UNIVERSITY

課題協学科目（授業デザイン）

➢構造

小クラス	第１週	４週８コマ	４週８コマ	４週８コマ	14~15週
１		協学課題１	協学課題３	協学課題２	
２		協学課題２	協学課題１	協学課題３	
３		協学課題３	協学課題２	協学課題１	

KYUSHU UNIVERSITY

授業実践事例
（基幹教育セミナー）

基幹教育セミナー（履修要項）

- 目的

科学技術が急速に進歩し、グローバル化が進展する現代では、一人ひとりが変化や多様性と“しなやか”に付き合って（柔軟に適応して）いくことが求められます。このことを可能にするのは、私たちの生涯にわたる自律的な成長を支える＜学びの基幹＞です。すなわち、社会の諸課題や自己について創造的・批判的に吟味しつつ、自ら問題を発見し、絶えず主体的に学び続ける態度です。本授業は、異なる専門分野を目指す学生および教員との対話や自己省察を通じ、一人ひとりが＜学びの基幹＞を育むことを目的としています。

KYUSHU UNIVERSITY

基幹教育セミナー（履修要項）

- 目標

一人ひとりが自らの大学における学びについて深く問い、またそれを他者に伝える体験を通じ、大学における学びへの意欲を高めるとともに、自らの学びが持つ可能性や意義について自分なりの理解に基づく説明ができるようになることを目指します。また、仲間との対話や自己省察により新たな気づきや疑問を発見する過程を通じ、創造的、批判的に問題に取り組み学んでいく態度を培うとともに、仲間（他者）と学ぶ意義について自分の言葉で説明ができるようになることを目指します。

KYUSHU UNIVERSITY

基幹教育セミナー（科目開発の道のり）

- 2011年10月
  基幹教育院設置
- 2011年12月
  基幹教育カリキュラム基本構想部会
- 2012年07月
  基幹教育カリキュラム基本構想部会＞科目部会「基幹教育セミナー部会」
- 2012年11月
  基幹教育実施準備WG
- 2013年03月
  基幹教育実施準備WG＞科目実施WG「セミナー班」*2014年02月~科目実施班へ
- 2013年04月
  基幹教育セミナー試行科目（前期2クラス/ 後期2クラス）
- 2014年04月
  基幹教育カリキュラム開始

KYUSHU UNIVERSITY

基幹教育セミナー（授業デザイン）

- 授業での活動

本授業の主役は、学生。

授業で行う活動の大きな柱は、次の3つ。

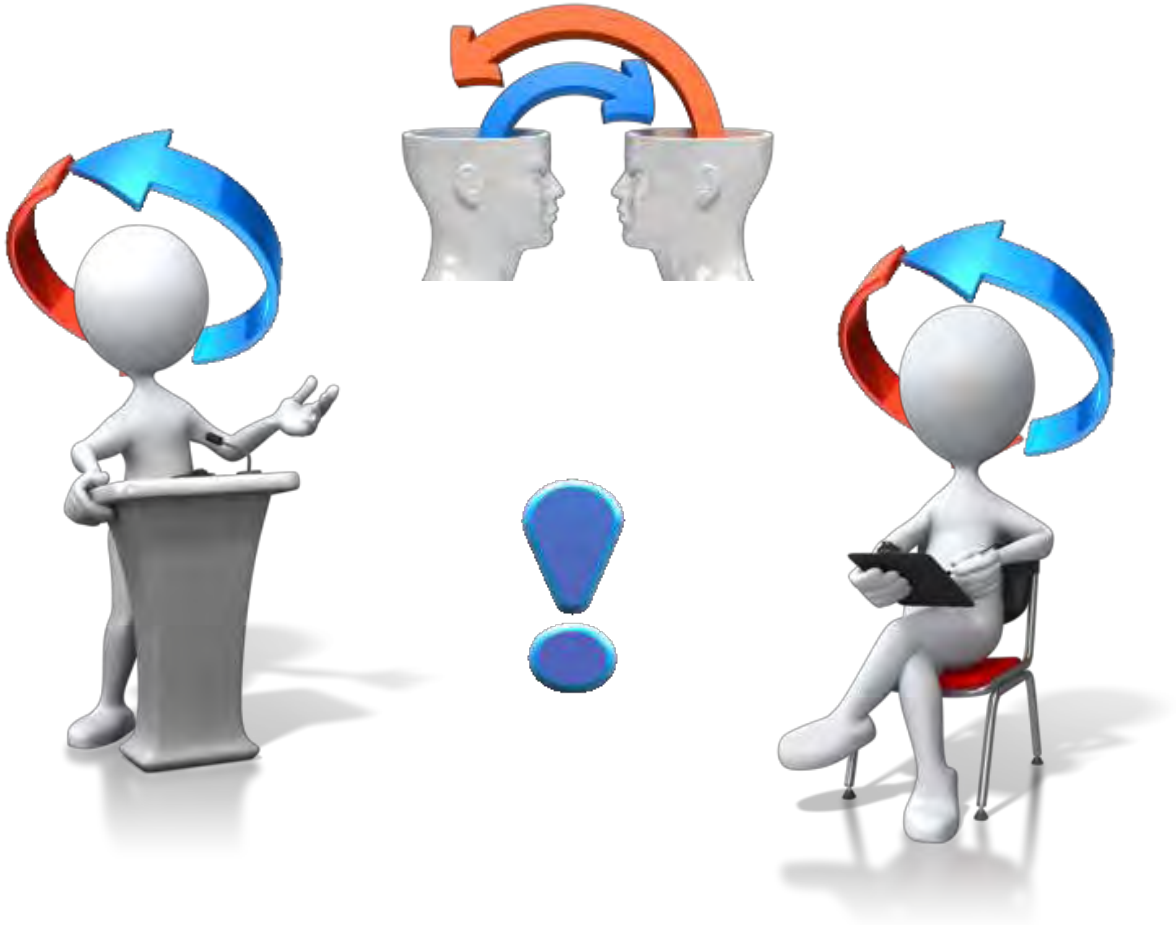
(1)クラスの仲間や教員との対話（自分自身とも対話する）

(2)口頭による発表（発表者に対するフィードバックも行う）

(3)口頭発表の内容を文章化して伝える課題の作成（口頭による補足説明ができない文章の表現力も磨く）

KYUSHU UNIVERSITY

基幹教育セミナー（授業デザイン）



KYUSHU UNIVERSITY

基幹教育セミナー（授業デザイン）

➢サイズ

✓文理混成で約20名/クラス

✓（月・火・木・金）5限に開講、およそ30クラス/日

➢ツール

✓リフレクト・シート

✓フィードバック・シート

➢コース

1. オリエンテーション▽対話と学び

2~3. プレ発表▽大学で学ぶ意義

4~6. 教員による「私にとっての学び」

7. 口頭発表・文章による表現

8. 大学で学ぶ意義

9~14. 本番発表　4名/日

テーマ：自分が大学で学ぼう（取り組もう）と考えていること

15. まとめ

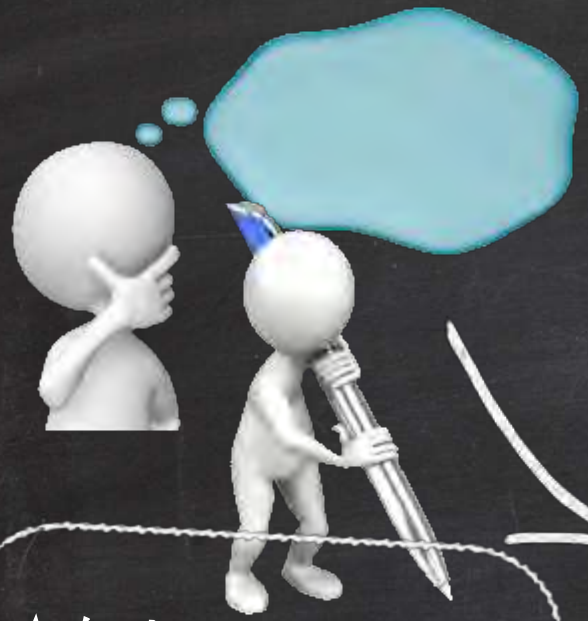
KYUSHU UNIVERSITY

Mirroring

1. 先ずは、自己紹介の内容を各自で考えよう《2分程度》
   ※ヒントは隠そう
2. トップバッターから、自己紹介を始めましょう《1分程度》
   ※メモはNGです
3. 自己紹介を終えたら、トップバッターが、メンバーの誰かを指名します
4. 指名されたら、さっきまで聴いていた自己紹介の内容をミラーリング（そっくりそのままモノマネ）します《1分程度》
5. ミラーリング（そっくりそのままモノマネ）を終えたら、続いて自分の自己紹介を行います《1分程度》…終えたら、次の人を指名します
6. あとは、繰り返していきます
7. さて、順に一周してメンバー全員がやり終えたでしょうか
8. メンバー全員の名前を言えて、名前を（漢字で）書けるようになっていれば…

“いいね”

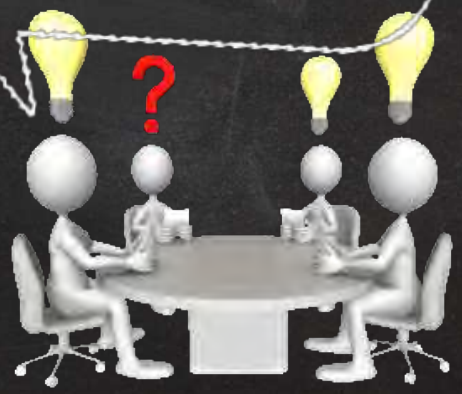
Mirroring



★受け取ってもらえるように話す★注意して意味に耳を傾ける

★伝わるよう(論理的)に考える

★メンバーを観察する(関心を持つ)★思考プロセスを全員でつくる



★聴いて理解したことをフィードバックする★伝えたかったことを再確認する

dialogue⇒dialogos(ギリシャ語)＝dia<～を通して>＋logos<言葉>

▼

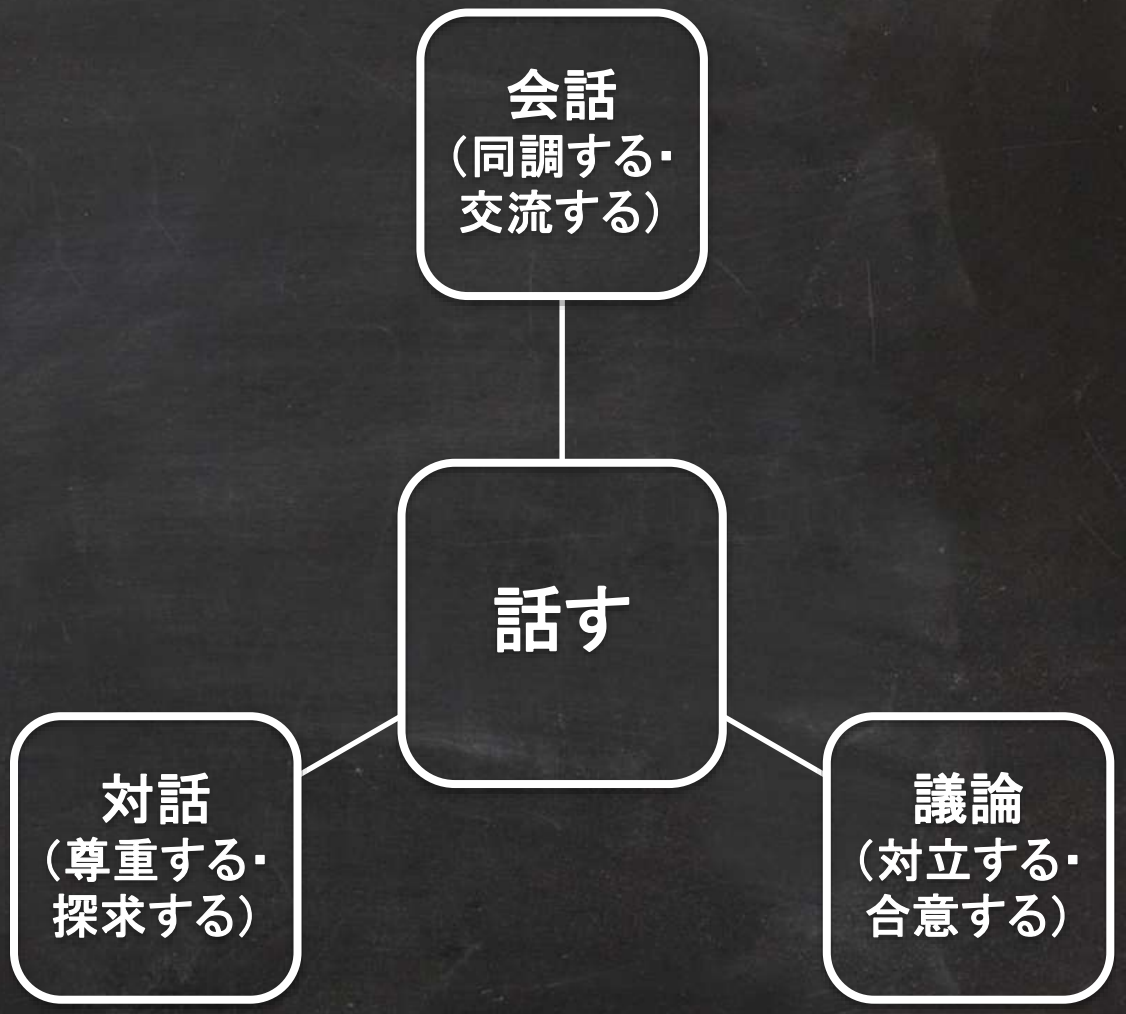
discussion: 壊す(分析し解体する)

▼

debate: 戦う(競争し勝利する)

▼

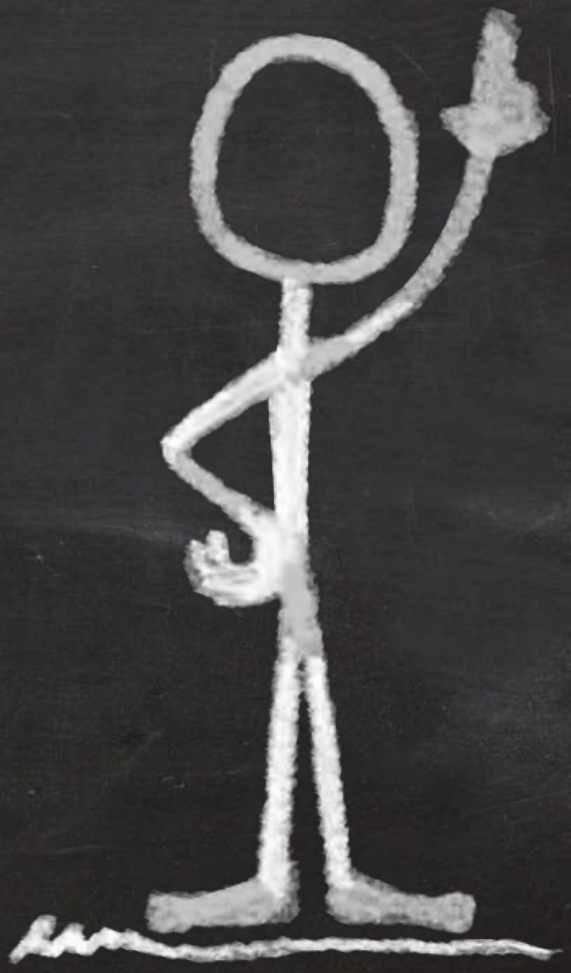
communication: 何かを共通のものにする



Dialogue

新たな考えや意味を創り出す

- 論理的に考え
- 違いを尊重し
- 意味に耳を傾け
- 他者から学び
- 自分にも気づき
- 変化のプロセスを楽しむ



基幹教育セミナー（科目実施班による独自アンケート(2014前)）

- 授業開始時の
  <プレ>アンケートと
  授業終了時の
  <ポスト>アンケート
  - ✓pre N=785
  - ✓post N=672

回答者所属学部・学科	プレ	ポスト	回答者所属学部・学科	プレ	ポスト
11. 文学部	47	42	26. 薬学部/臨床	5	4
12. 教育学部	22	20	27. 工学部/建築	12	7
13. 法学部	58	46	28. 工学部/電情	51	39
14. 経済学部/経済・経営	48	40	29. 工学部/物質	48	39
15. 経済学部/経工	22	18	30. 工学部/地環	38	35
16. 理学部/物理	12	9	31. 工学部/エネ	33	32
17. 理学部/化学	24	22	32. 工学部/機航	66	55
18. 理学部/地惑	15	16	33. 芸術工学部/環境	20	20
19. 理学部/数学	11	11	34. 芸術工学部/工業	15	13
20. 理学部/生物	15	13	35. 芸術工学部/画像	6	3
21. 医学部/医学	37	30	36. 芸術工学部/音響	9	9
22. 医学部/生命	8	7	37. 芸術工学部/芸情	12	12
23. 医学部/保健	42	34	38. 農学部	77	70
24. 歯学部	11	9	39. ２１世紀プログラム	3	2
25. 薬学部/創薬	18	15			

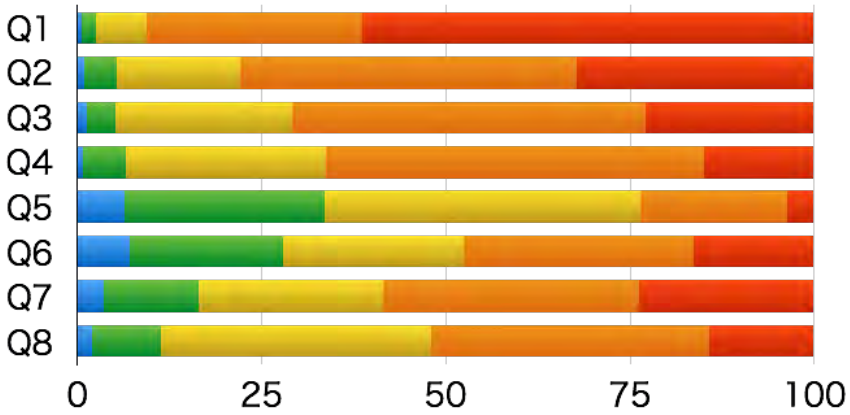
KYUSHU UNIVERSITY

基幹教育セミナー（科目実施班による独自アンケート(2014前)）

➢ <プレ>アンケート

1. 自分の専攻する（したい）分野に対して学ぶ意欲を持っている
2. 自分の専攻する（したい）分野以外の様々な分野の学習に対する興味・関心を持っている
3. 人の話や考えをしっかりと聞くことができる
4. 人の意見を参考にして新たな考えを得ることができる
5. 自分の意見をわかりやすく伝えることができる
6. 自分が将来やりたいことについて具体的なイメージを持っている
7. 自分の将来の目標と大学の学びを結びつけて考えている
8. 大学で学ぶことの意義を理解している

あてはまらない(1), あまりあてはまらない(2), どちらともいえない(3), 少しあてはまる(4), あてはまる(5) …一つを選択する5件法



KYUSHU UNIVERSITY

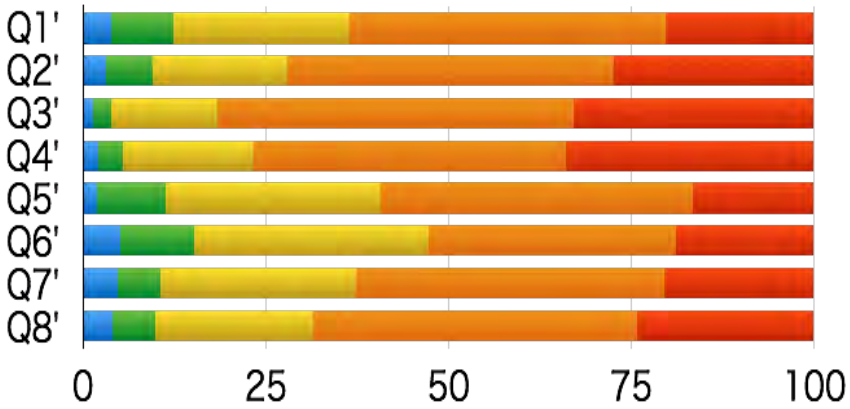
基幹教育セミナー（科目実施班による独自アンケート(2014前)）

➢ <ポスト>アンケート

セミナーを受講したことで…

1. 自分の専攻する（したい）分野に対して学ぶ意欲が高まった
2. 自分の専攻する（したい）分野以外の様々な分野に対する興味・関心が深まった
3. 他者の話や考えをしっかりと聞くことができるようになった
4. 他者との対話を通じて新たな気づきを得たり自分の考えを発展させることができるようになった
5. 自分の意見をわかりやすく伝えることができるようになった
6. 自分が将来やりたいことについて具体的なイメージを持てるようになった
7. 自分の将来の目標と大学の学びを結びつけて考えることができるようになった
8. 大学で学ぶ意義について理解が深まった

あてはまらない(1), あまりあてはまらない(2), どちらともいえない(3), 少しあてはまる(4), あてはまる(5) …一つを選択する5件法



KYUSHU UNIVERSITY

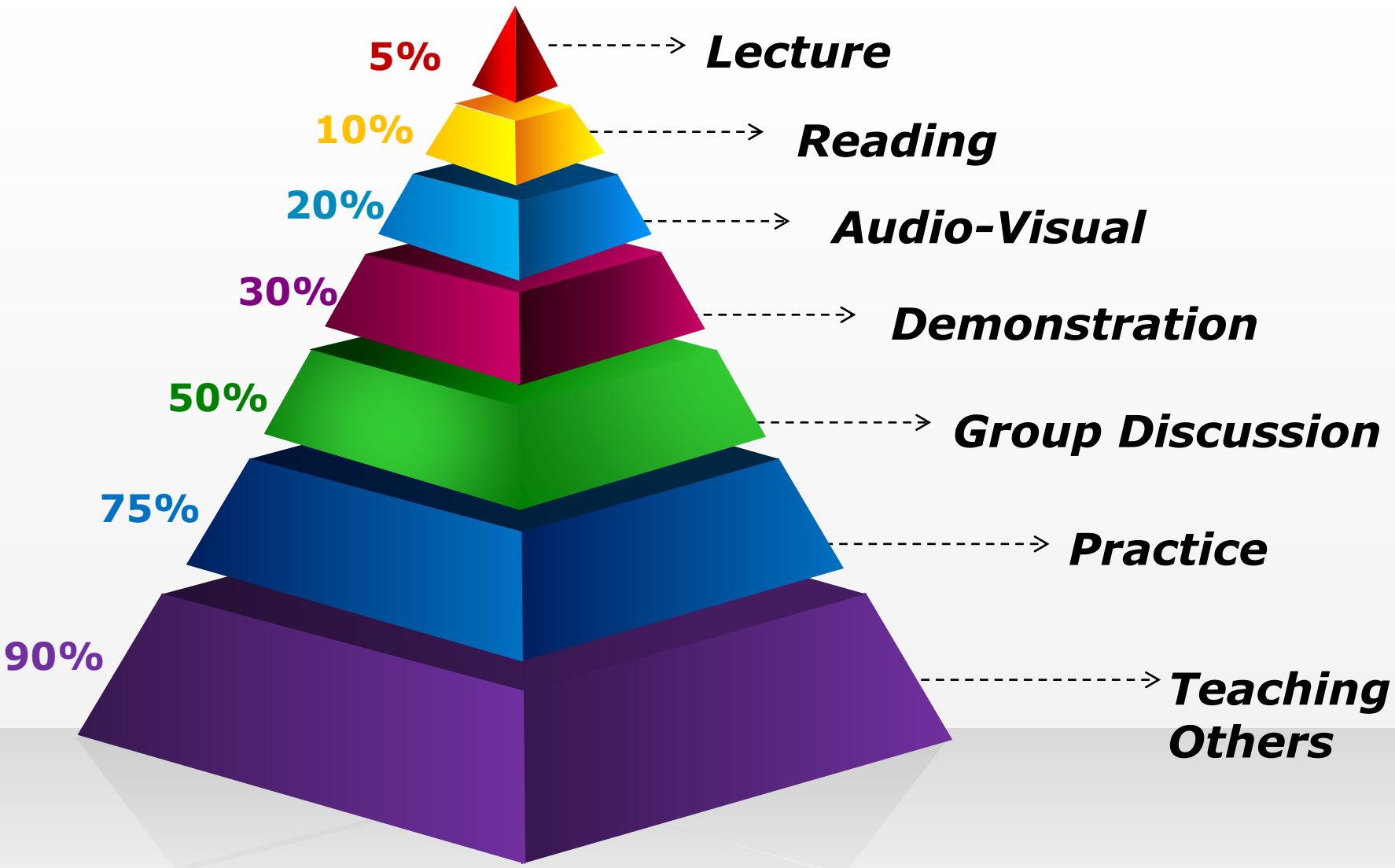
アクティブ・ラーニング：
どんな方法・方略を駆使するのか

中央教育審議会 20120828「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）」

用語集【アクティブ・ラーニング】

教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

Learning Pyramid*



＊NTL（National Training Laboratories）が、平均学習定着率（Average Learning Retention Rates）を調査し、モデル化したもの

http://www.kabegamilink.com/act/0705/03430.html

Structure of Active Learning

Elements

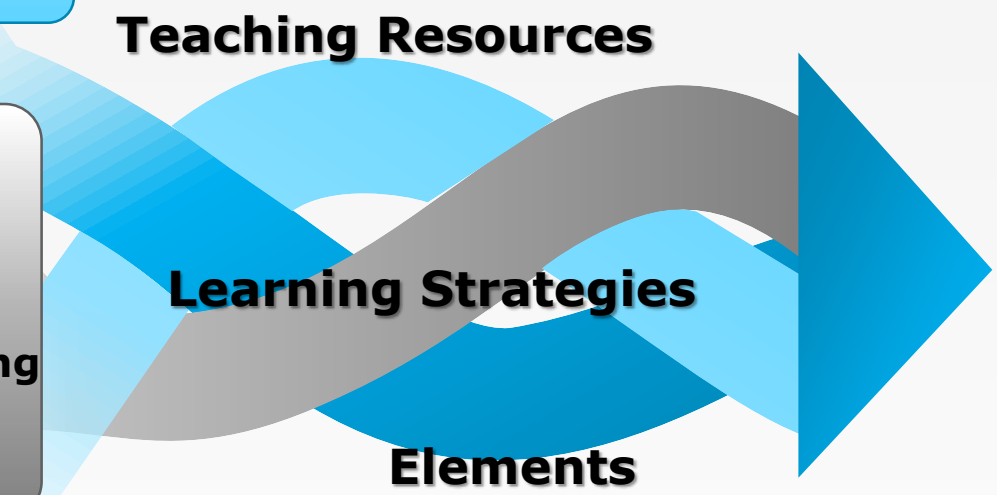
- talking and listening
- writing
- reading
- reflecting

Learning Strategies

- small groups
- cooperative work
- case studies
- simulations
- discussion teaching
- problem solving
- journal writing

Teaching Resources

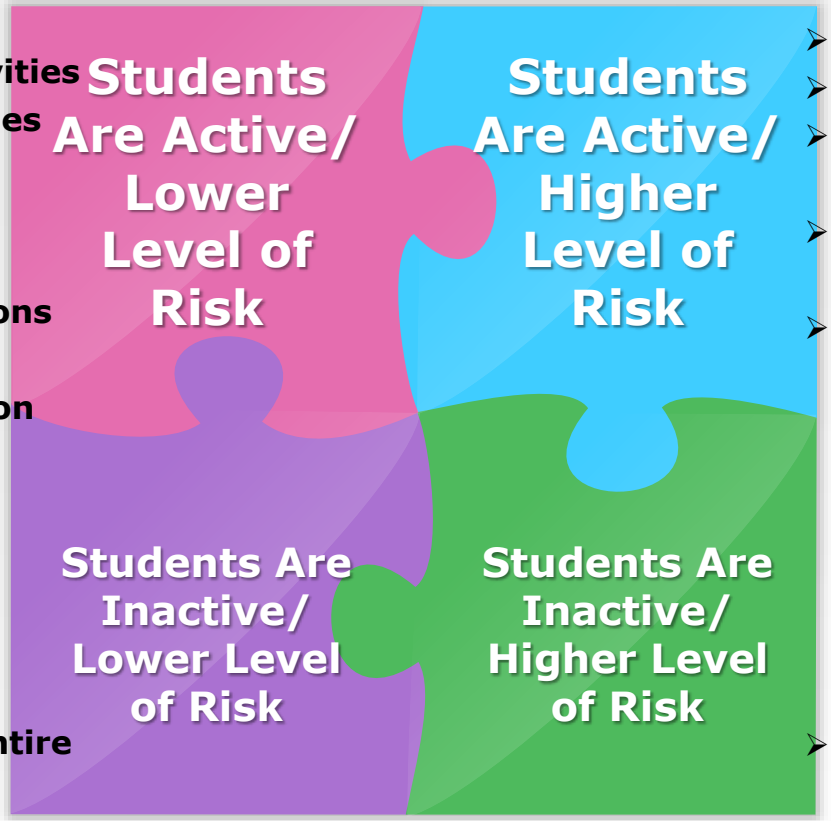
- readings
- homework assignments
- outside speakers
- teaching technology
- prepared educational materials
- commercial and educational television



Meyers, Chet and Jones, Thomas B. 1993, *Promoting Active Learning: Strategies for the College Classroom*, San Francisco: Jossey-Bass Publishers, p.20.

A CLASSIFICATION OF INSTRUCTIONAL STRATEGIES ACCORDING TO STUDENT'S ACTIVITY AND RISK INVOLVED

- Structured small-group discussion
- Surveys or Questionnaires
- Demonstrations
- Self-assessment activities
- Brainstorming activities
- In-class writing
- Field trips
- Library tours
- Quizzes or examinations
- Lecture with pauses
- Lecture with discussion



- Role playing
- Small-group presentations
- Presentations by individual students
- Unstructured small-group discussion
- Responsive lecture

- Show a film for the entire class period
- Lecture for the entire period

- Invite a guest lecturer of unknown quality

Bonwell, Charles C. and Eison, James A. 1991, *Active Learning: Creating Excitement in the Classroom*, San Francisco: Jossey-Bass Publishers, p.69.

何か行動を起す（唯黙って講義を聴いているのではなく、グループ討議や発言などを含む）ということが主体的と思われるが、それだけでは駄目で、省察（リフレクション）に繋がる脳の働きがないと主体的とは言えない。

Eison, James A.

（主体的学び研究所編 2014: 160頁）

Questions? Comments?

We are happy to help you!

Thank You !

gakutnk@artsci.kyushu-u.ac.jp

“語る”と“聴く”を繋げる初年次セミナー
ー九州大学基幹教育カリキュラムを事例にー
FDセミナー
アクティブ・ラーニングについて考える
2015年**09**月**07**日（月）**13**時**30**分～**16**時
神戸大学（六甲台第**2**キャンパス）瀧川記念学術交流会館